

「保育の現場・職業の魅力向上検討会（第1回）」参考資料

検討課題①：職業の魅力向上と発信について

■子どもたちの夢・あこがれの職業としての保育士

○子どもたちの夢の実現に応えていくために

○保育を学ぶ学生の声より

- ・「子どもの日々の小さな成長を子どもや保護者と一緒に喜び合えることが保育士という職業の魅力であると考えます。また、未来に繋がる仕事だということも大きな魅力だと思います。乳幼児期の記憶はほとんど残っていないかもしれません、乳幼児期に経験した友達とのぶつかり合いを乗り越える経験、自分の興味がある遊びにとことん取り組む経験等は、社会で生きていくために必要な力であり、それを育むことができるのも保育士であると考えます。」（N 大学生）
- ・「子どもの成長を身近に感じ、共に喜び共有できるということが魅力の1つであると感じます。子どもの成長を見守るだけではなく、保育者という立場で一緒に成長できること、それが子どもたちにとっての今後の人生の基盤となるということ、家庭以外の初めての社会であるということで葛藤などを始め、たくさんの学びや経験のきっかけがあり、それに気付き関わりかたや環境構成などを変えていくなど、子どもだけではなく、保育者も生涯学び続けられるということが魅力であると思います。」（T 大学生）

■保育の専門性とは？

○複合的で多面的な保育の質を豊かに保障していくための専門的知識及び技術、幅広

く深い教養及び総合的な判断力、そして保育者の豊かな人間性が基盤となって立ち現
れてくるもの

○「子どもにとってどうなのか」という命題への探究

（「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」より）

■保育士養成校（養成校教員）としての使命と倫理

○「一般社団法人全国保育士養成協議会保育士養成倫理綱領(案)」の策定

→2月3日パブリックコメント募集開始

○保育現場と養成校との協働による養成教育の質的向上

→授業公開による教授内容の精選と再構築

(指針等を踏まえた教育課程の編成と各教員の理解の促進)

→「保育実習指導のミニマムスタンダード」の策定による実習指導の質向上

→学生の現場における保育の質向上への参画

■保育現場における発信機能の強化

○保護者による一日保育士体験の積極的な案内（自治体ベース）

○「保育所の自己評価ガイドライン」に基づく取り組み

→保育の公開による関係者評価の促進

→地元企業・養成校教員・小中高校教諭（家庭科担当教員）等への依頼

■国や自治体からの情報発信・伝達のあり方の一層の工夫

・・・など

検討課題②：魅力ある職場づくりについて

■次代の保育を担う学生の声を生かす職場風土の構築

○キャリアアップ研修の一層の推進（管理職含む「マネジメント」分野の研修充実）

「私は、子育て世代の保育者も含め、様々な年代の保育者が現場で働き続けることができる職場になるように取り組んでいきたいと考えています。このように考えるようになったきっかけは、卒業論文で保育者のワーク・ライフ・バランスについて関心を持ったからです。この研究を通して、保育者のワーク・ライフ・バランスを実現するために、保育者同士のコミュニケーションを充実、保育者のプライベート充実、ワークシェアリング、ノンコンタクトタイムの導入などに取り組んでいく必要があると考えました。保育士1年目のうちは無理でも、2年、3年と経験を積み、意見を言える立場になら、卒業研究で学んだことを、発信していきたいと考えています。」（N大学学生）

■雇用の創出を伴う保育現場の改革

○他専門職を交えた多職種協働による保育の展開

・・・など

○子どもという存在への社会的関心を高めるための方略についての検討

子どもは、私たちが目にすることのない未来の時代へ、

私たちが送る生きたメッセージである

『子どもはもういない 教育と文化への警告』ニール・ポストマン（著）小柴一（訳）新樹社

文責：那須信樹

（中村学園大学）